

水稻スキルアップ塾を開催（世羅町）

【平成 30 年 2 月 23 日 掲載】

2月7日、世羅町世羅西支所で旧世羅西町の集落法人を対象とした3回シリーズの水稻スキルアップ塾の閉講式が行われました。

1月17日に開講したこの塾は、世羅町小国地区の4法人（（農）上小国、（農）黒羽田、（農）大福ファーム、（農）きらり狩山）の法人間連携を検討する中で、「法人役員等の世代交代が進む中で経営基盤となる水稻作の基本技術の継承が十分図られておらず、低収の経営体が多い。」との課題提起を受け、4法人で構成する実行委員会が開講したものです。開講に当たっては、4法人が発起人となり、旧世羅西町内の集落法人へも広く参加を呼びかけ、3回の塾には11法人から延べ95名が参加しました。



この塾では、指導所、全農ひろしま、病虫害防除所が講師を務め、稲の生理生態や土壌診断を踏まえた土づくり、今後普及が期待されるコスト低減技術、米の需給動向や病虫害・雑草防除対策等について研修を行いました。

シリーズ最終回には、3回の受講内容を踏まえ、各法人で策定した平成30年産の水稻作に係る改善・実践目標の発表が行われました。

閉講式では塾長の（農）きらり狩山 高谷 義則（たかたによしのり）代表理事から「水稻は1年1作の作物。11法人の様々な実践取組を共有することで1年で11年分の経験、成果の蓄積ができる。このような面からも法人間連携は有効で、強みを活かしていくことが必要。」とのあいさつがありました。



今後の取組として、各法人における実践取組の現地巡回研修や成果報告会を開催予定で、指導所では法人が主体となった経営改善目標達成に向けた支援を行うとともに、小国地区4法人における法人間連携の具体的な方策・方向性について、関係機関と一体となって支援を行っていくこととしています。